

成と大規模な場との関連について調べていきたい。

### 3. 1983年台風10号の予報実験

三浦信男（気象庁電子計算室）

台風が温低に移行し、日本付近を急速に通過する場合、気象庁ルーチンモデルではしばしば、大幅な移動の遅れや異常な気圧パターンを示すことがある。今回はこの原因を追求し、分解能の異なる3種類の微格子モデルを用いて、初期値と分解能のインパクトについて調べた。その結果

(1) 台風についても通常の解析システムを用いているため、地上気圧は深く解析されるが、850 mb, 700

mbの高度が浅くなっている。このため下層(850 mb以下)の thickness temperature が異常に高くなり、初期値を作成する際台風の中心付近が乾燥し、雨が降らない。

(2) 上記の欠点をボーガスデータで修正した初期値を用いて、12L-FLM( $d=127$  km), 11L-VFM( $d=63.5$  km), 13L-UFM( $d=25.4$  km)の3種類の微格子モデルを36時間走らせた。FLMでは下層の渦が急速につぶれ、あまり改善が見られなかった。

VFM, UFMでは初期の渦が維持され、移動速度、地上気圧パターンに大きな改善が見られた。

## 学会会費値上げの実施について (昭59. 10. 1日気学第23-17号)

当学会員の皆様には、益々ご健勝の程お喜び申し上げます。

さて、当学会々費の値上げにつきましては、本年3月にご提案(「天気」31巻3号参照)をいたし、5月24日開催の昭和59年度社団法人日本気象会学総会において、定款の一部変更案(値上げ案)をご審議願ひ可決ご承認をいただきました(「天気」31巻8号参照)。

これに伴い、文部大臣の承認を申請中のところ、7月30日文部省雑学第13の19号をもって、定款の一部変更が認可されました。

つきましては、昭和60年1月1日から、右記のとおり会費の値上げを実施いたしますので、ご承知下さるようお願いいたします。

記

通常会員 A 4,600円を5,500円に

通常会員 B 8,600円を10,300円に

学生会員 A 2,900円を3,500円に

学生会員 B 5,400円を6,500円に

外国在住日本人 A 6,000円を7,200円に

外国在住日本人 B 9,200円を11,000円に

外国在住外国人 A 38 U.S.ドルを45 U.S.ドルに

外国在住外国人 B 58 U.S.ドルを72 U.S.ドルに

内国団体 A 6,000円を7,200円に

内国団体 B 12,000円を14,400円に

外国団体 A 46 U.S.ドルを65 U.S.ドルに

外国団体 B 85 U.S.ドルを100 U.S.ドルに

なお、会費の納入につきましては、くれぐれも滞納のないようご協力願ひます。

(654頁より続く)

温分布を移動観測法により調べ、天気がよく風の弱い日の場合、どの季節においてもヒートアイランドが形成されることを突き止めた。これらのデータをもとに教材化を進め、生徒達が実習することによって大阪の市街地の気候特性をとらえさせる工夫をして来た。

次の段階は、生徒自らが観測し、データを収集する作業に参加させることであった。その一つの例は「降雹域の分布と移動の調査」である。通学区域の広さを考慮して約240名の生徒の聞き取り調査から降雹域の広がりや移動の方向・速度及び雹粒の大きさの分布などをとらえた。これは建設局のレーダーエコーの結果ともよく一致

した。他の例は「都市公園の気温に関する研究」である。クラブ活動の生徒を指導してのこの成果は第26回日本学生科学賞でも認められ入賞を果たした。

柴山会員は、地域の気象教材、特に都市域の局地気象教材の開発を更に進めるべく現在「高層ビルの風」や「校舎屋上からの視程観測」などに精力的に取り組んでいる。

生徒と活動を共にし、気象に関する興味関心を高める指導をされた同会員の気象教育研究の在り方は、同時に環境教育にもかかわり貴重な方向付けを示している。今後学校気象教育に多大の貢献が期待されるので、本学会はここに奨励金を贈るものである。